

「水道財政のあり方に関する研究会」報告書骨子（案）

- はじめに（研究会設置の趣旨）
 - 1. 厳しさを増す経営環境
 - （1）人口減少等に伴う料金収入の減少
 - （2）老朽化に伴う更新需要の増大
 - （3）地震等の自然災害の頻発
 - （4）職員数の減少
 - （5）事業体ごとの経営状況
 - （6）水道法の改正
 - 2. 持続的な経営のための基本的な考え方
（中長期の視点に立った経営戦略の策定）
（適切なアセットマネジメントの実施）
（経営基盤の強化）
（事業用資産の着実な更新）
 - 3. 今後の具体的な取組方策
 - （1）経営戦略の充実
（水道事業における経営戦略の役割）
（経営戦略の策定状況と課題）
（経営戦略のローリング）
 - （2）アセットマネジメントの充実
（必要となるアセットマネジメントの精度）
（アセットマネジメントの実施状況と課題）
（施設台帳の整備）
（アセットマネジメントの充実を促す取組）
 - （3）料金水準の適正化
（料金改定の状況と課題）
（地方財政措置における料金水準要件）
 - （4）多様な広域化の推進
（広域化の意義と期待される効果）
（これまでの広域化の取組と検討状況）
（広域化を推進するための今後の取組）
（広域化に係る地方財政措置）
（広域化推進のための計画）

- (5) 更新投資を促進するための地方財政措置の検討
 - (更新投資に係る当面の財政措置の必要性)
 - (更新投資に係る当面の財政措置の基本的なあり方)

4. 今後引き続き検討すべき課題

- (簡易水道事業のあり方)
- (「水道」に替わる簡素な給水方法)
- (ICT、IoT等の先端技術の活用)